

福井市の森林・林業・木材産業の現状

【森林資源】

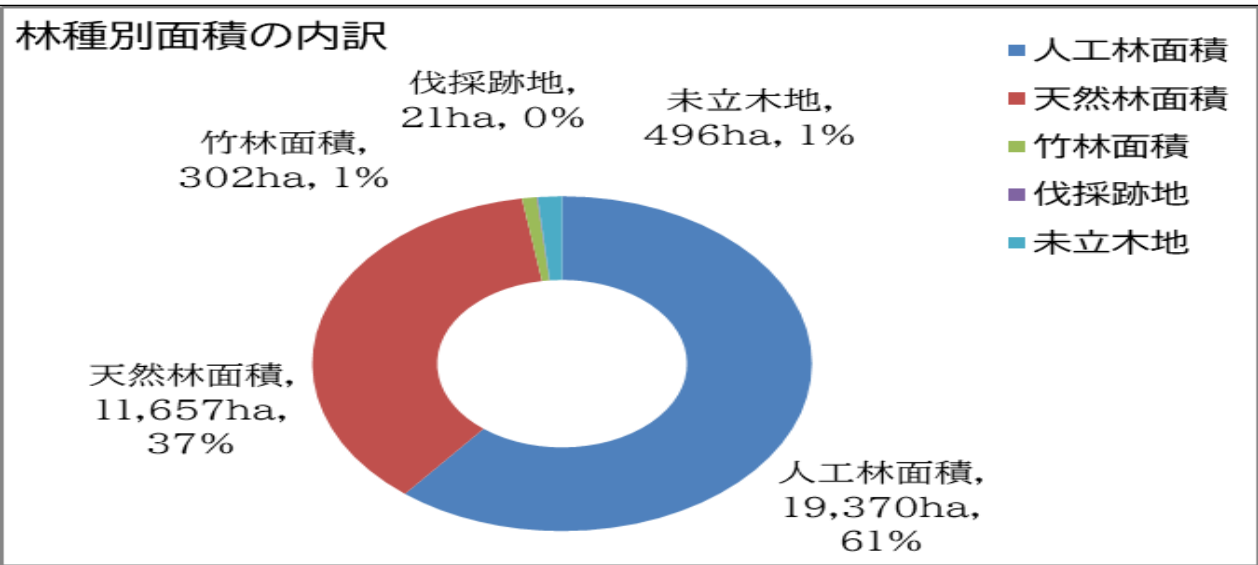
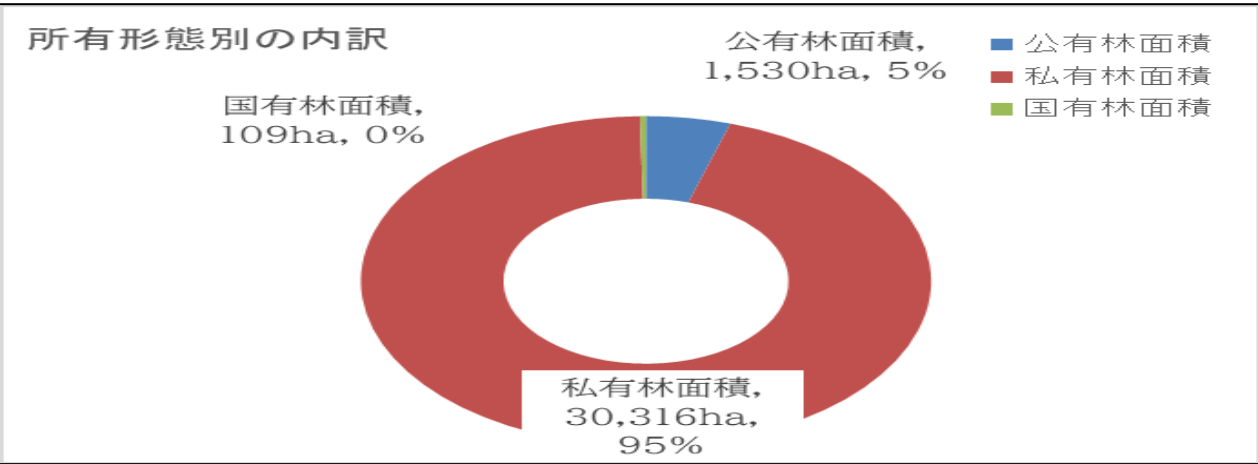
本市の森林面積は、令和4年度末で31,955haで総面積(54,641ha)の61%を占めている。

土地利用の利用状況

土地 面積 (ha)	森林 面積 (ha)	農 地			その他	
		総数(ha)	うち田(ha)	うち畑(ha)	総数(ha)	うち宅地(ha)
53,641	31,955	7,750	7,350	400	13,936	4,912

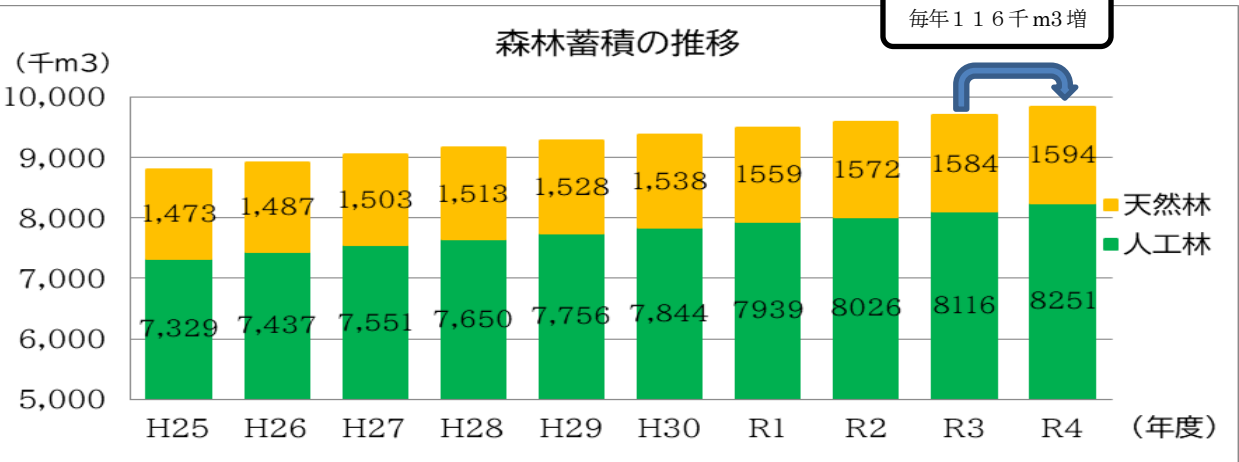
注 1 農地の数値は、北陸農政局「令和 3～4 年北陸農林水産統計年報」による。
2 宅地の数値は、県政策情報・統計課「令和 4 年度福井県市町勢要覧」による。

本市の森林のうち私有林と公有林を合わせた民有林面積は 31,846ha であり、総森林面積の 99.7%を占めている。民有林は林業生産活動が行われている人工林、広葉樹が林立する天然生林等で構成されている。
スギを主体とした人工林面積は19,370haと森林面積の60.8%を占めており、天然生林は11,657haと民有林面積の36.6%を占めている。



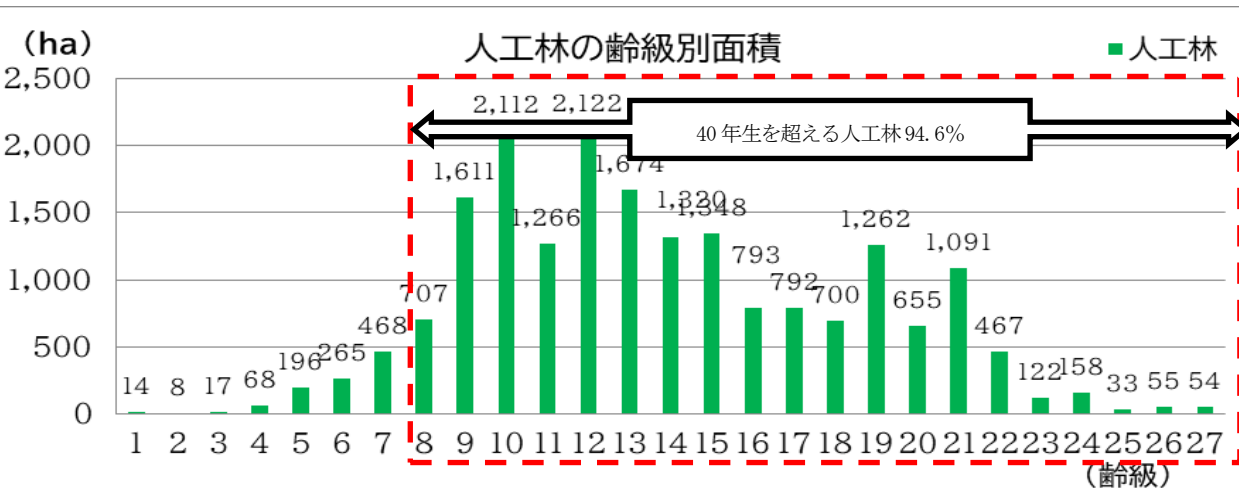
(出典:福井県林業統計書)

本市の森林資源(材積)は、人工林を中心に毎年平均116千 m3 増加し、令和4年度 9,845 千 m3となっており、充実している。



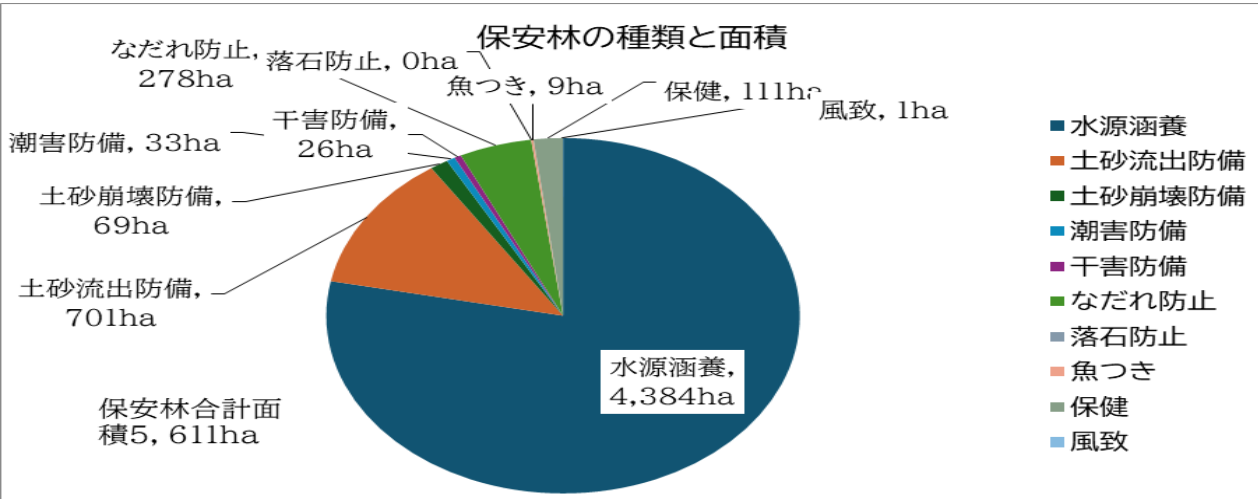
(出典:福井県林業統計書)

本市の人工林は、除間伐実施対象である、3～12齢級(11～60年生)は 8,832ha で人工林面積の45.5%を占め、主伐が実施できる8齢級(40年生)を超えている割合が約94.6%となっている。



(出典:森林簿(令和 6 年 3 月 31 日現在))

一方、令和5年度末で本市の民有林のうち約17%が公益的機能の発揮が特に要請される森林として「保安林」に指定され、伐採の制限や転用規制等がかかっている。



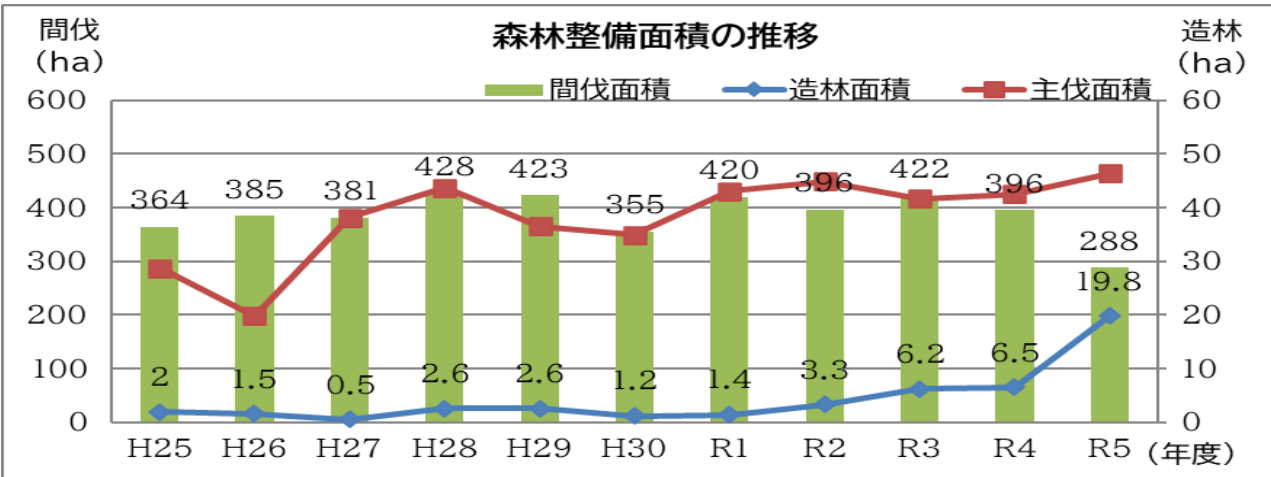
(出典:福井県林業統計書)

福井市の森林・林業・木材産業の現状

【森林(整備・保全・林業機械・施設関係)】

(1) 森林整備面積の推移

本市の森林整備面積は主伐面積が増加傾向にあるのに加え、近年では造林面積も増加傾向であり、資源の循環利用が図られつつある。一方で、間伐面積は年間平均 400ha で推移している。

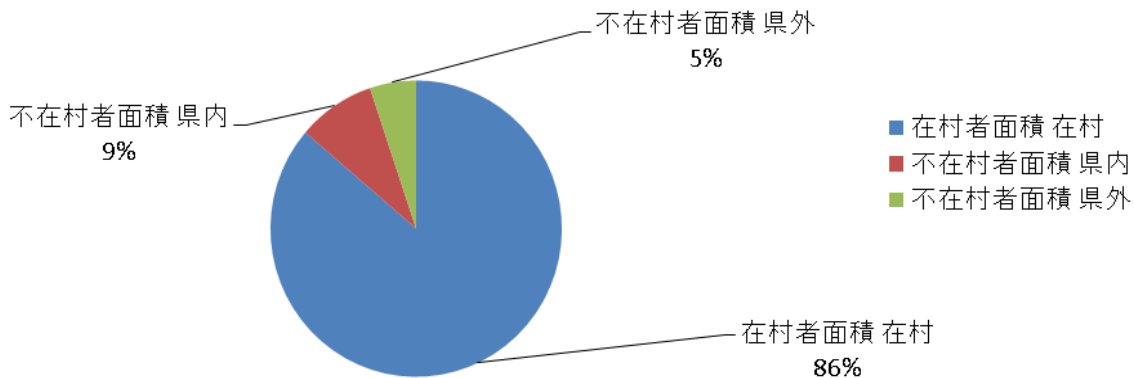


(出典:福井県林業統計書)

(2) 施業の集約化

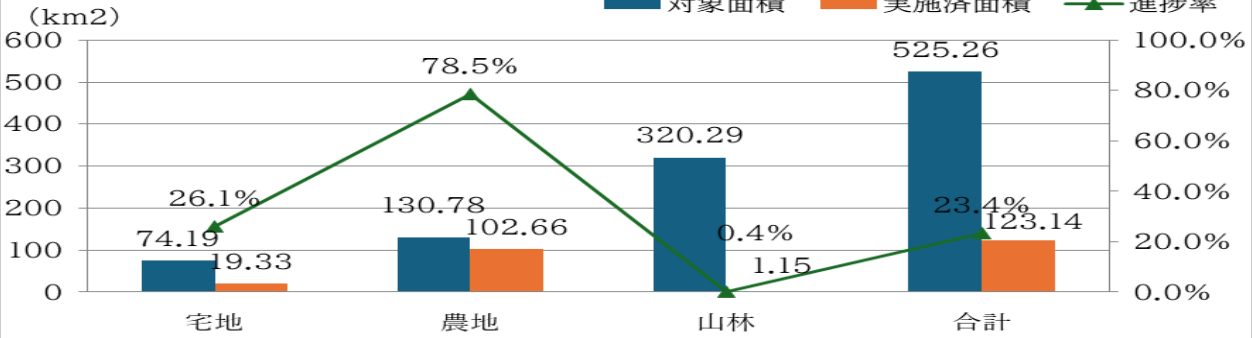
森林所有者の相続による世代交代等により不在村者が進んでいることに加え、地籍調査が進んでいないことにより、森林所有者の特定や森林境界の明確化に多大な労力を要している。そのため、本市の民有林のうち森林経営計画が策定されている割合は低下し集約化が進みにくい状況となっている。

不在村者保有の私有林面積の割合



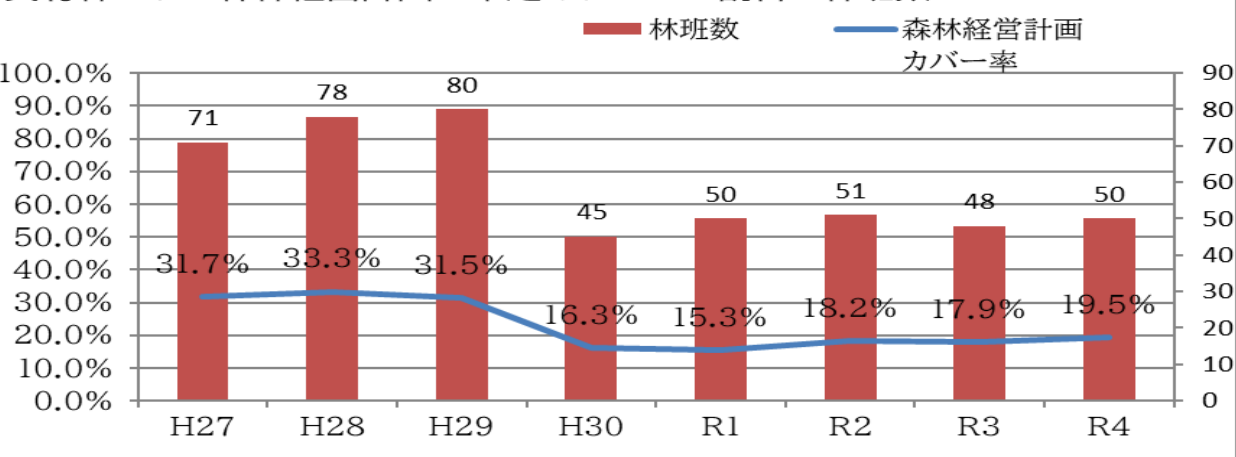
(出典:2000 年農林業センサス)

地籍調査の進捗状況



(出典:福井市農村整備課調べ R7.3.31 時点)

民有林のうち森林経営計画が策定されている割合と林班数

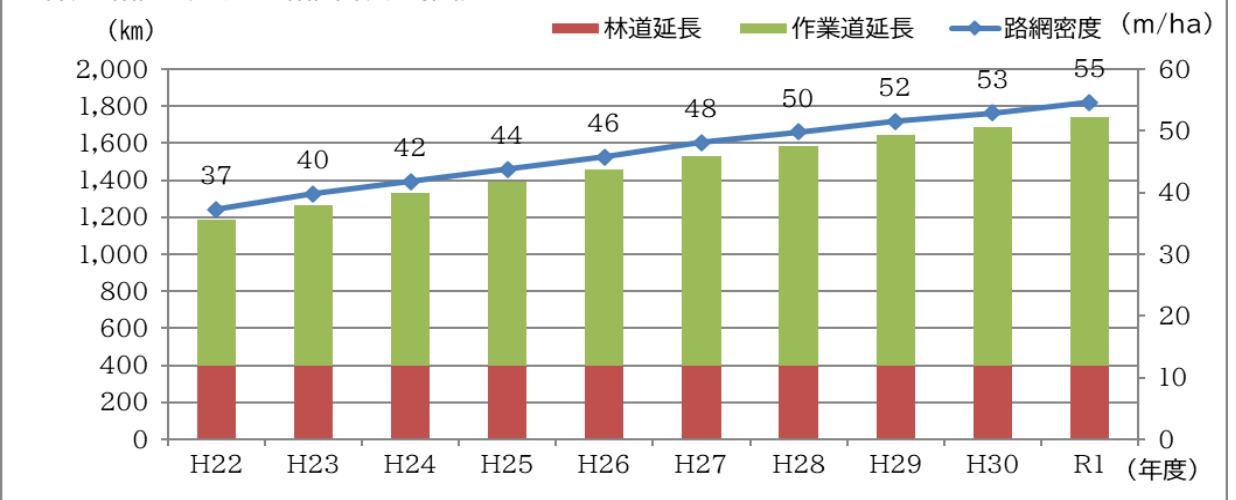


(出典:福井市林業水産課調べ)

(3) 作業の効率化の推移

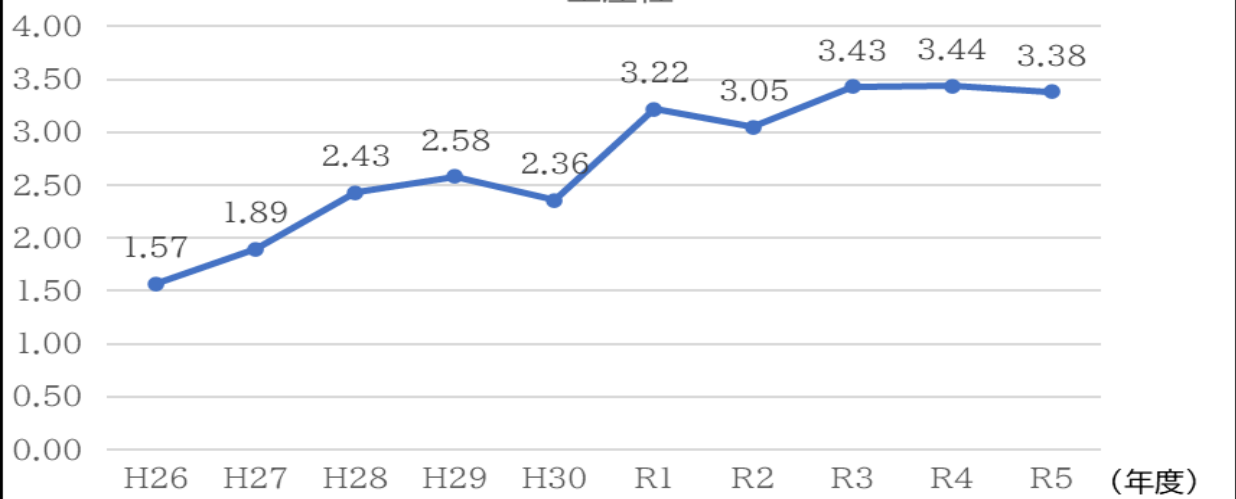
本市の生産基盤である路網延長は約 1458 kmで、路網密度はヘクタール当たり55mと年々充実していることに加え、高性能林業機械の購入、リースに対し支援することにより生産性の向上している。

林内路網延長及び路網密度の推移



(出典:福井県林業統計書、福井市林業水産課調べ)

生産性



(出典:福井市林業水産課調べ)

福井市の森林・林業・木材産業の現状

森林組合の高性能林業機械の導入後年数が経過し、老朽化が進んでいる。

森林組合別高性能林業機械保有数

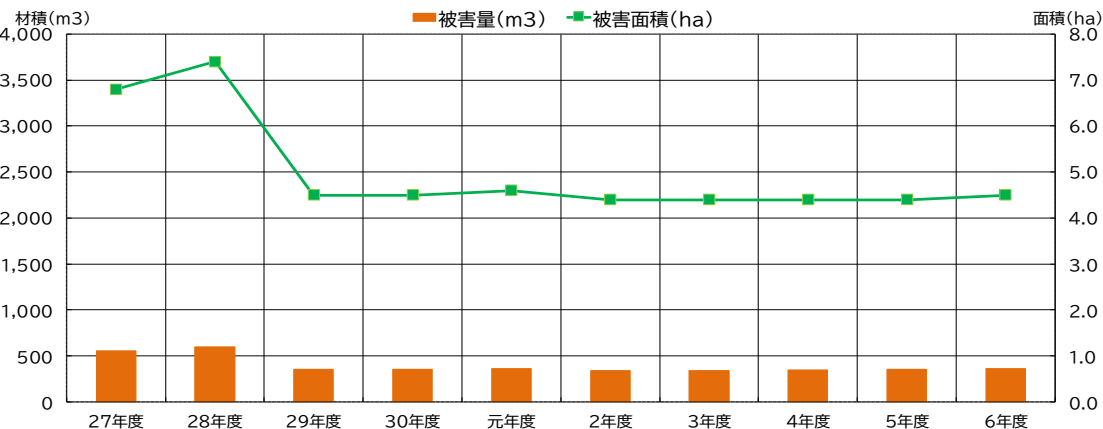
機械（使用用途）	福井森林組合	美山町森林組合	越前福井森林組合	森林組合計
ハーベスタ （伐倒・玉切・集材・積込）	1台 H26	1台（H23）		2台
グラップル （集材・積込）	3台（H23,24,27）	2台（H6,21）	2台（H22,25）	7台
スイングヤーダ （集材）		2台（H21,28）		2台
タワーヤーダ （集材）		1台（H7）		1台
フォワーダ （集材・運搬）	3台（H21,23,27）	2台（H23,28）	2台（H19,27）	7台
トラック （運搬）	4台（H9,17,25,26）	6台（H3,5,7,14,18,26）	3台（H7,25,R5）	13台

（出典：福井市林業水産課調べ）

(5)森林被害の推移

松林を保全する防除事業により松くい虫被害は横ばいである。

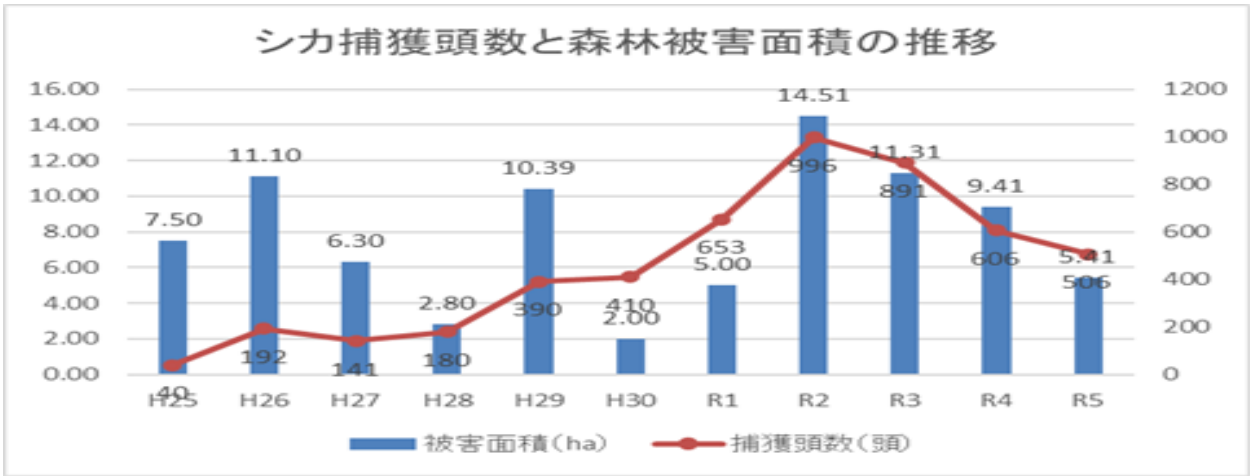
松くい虫被害状況



区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
被害量 (m ³)	557	596	352	353	365	343	343	344	352	363
被害面積 (h a)	6.8	7.4	4.5	4.5	4.6	4.4	4.4	4.4	4.4	4.5

（出典：福井市林業水産課調べ）

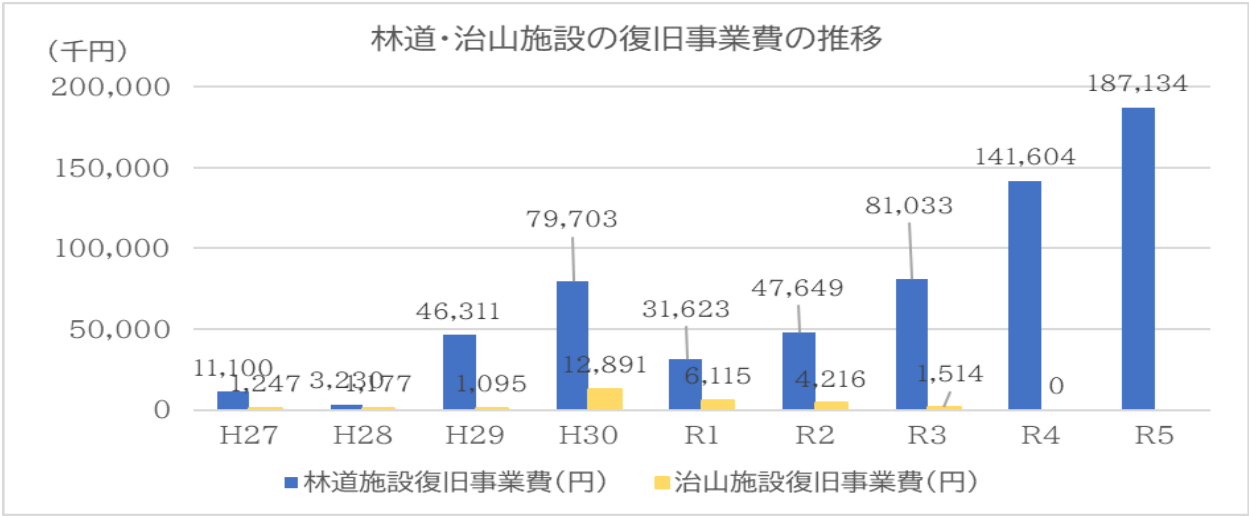
シカの生息域の拡大等を背景として森林被害、捕獲頭数も増加傾向にある。



（出典：福井市林業水産課調べ）

(6)施設復旧の推移と林道施設の老朽化

本市では、近年の豪雨の回数、林道施設や山腹斜面の復旧費用が増加している。



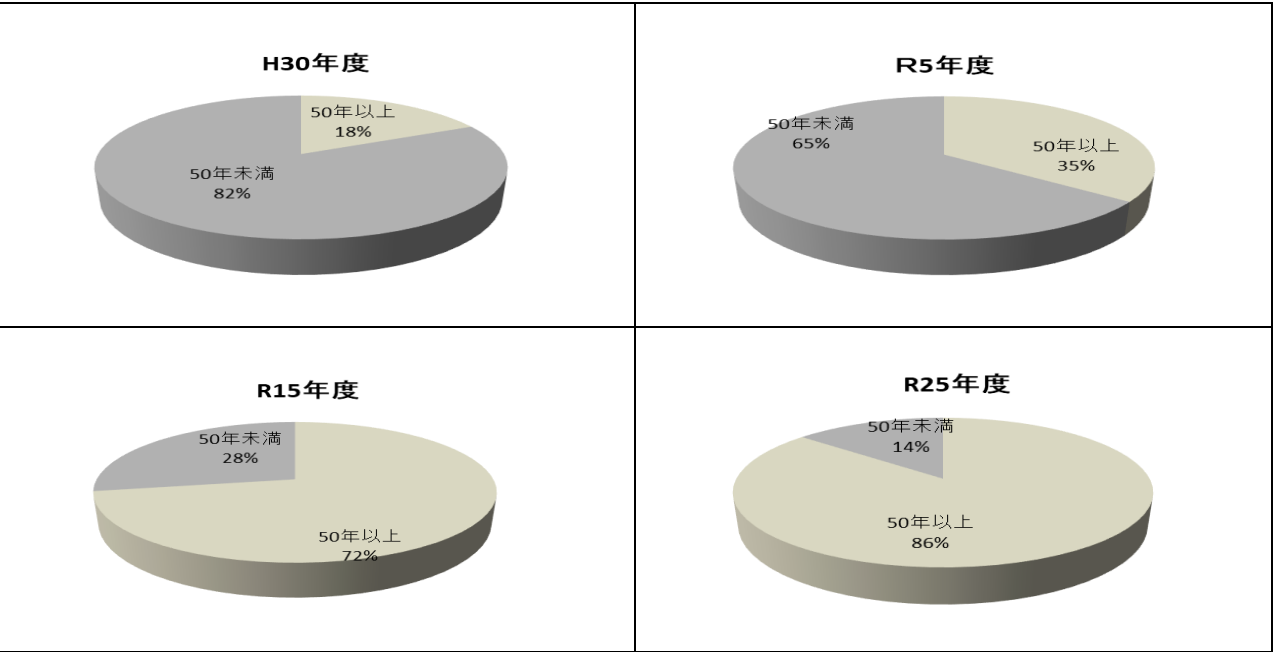
年度毎の発生回数	降水量(mm)			災害査定有無
	24時間80mm以上 （災害査定級）	24時間50mm以上 （大雨警報級）	1時間20mm以上 （ゲリラ豪雨）	
2024 (R6)	3	5	7	
2023 (R5)	2	10	8	○
2022 (R4)	2	3	8	
2021 (R3)	3	7	4	○
2020 (R2)	1	3	7	○
2019 (R1)	0	1	7	○
2018 (H30)	3	7	3	○
平均発生回数	2	6	7	

（出典：福井市林業水産課調べ）

(7)林道施設の老朽化

本市の林道橋梁は65橋あり、建設後50年以上橋梁数が35%で、今後急速に老朽化が進んでいく。

林道橋梁設置後の経過年数の割合



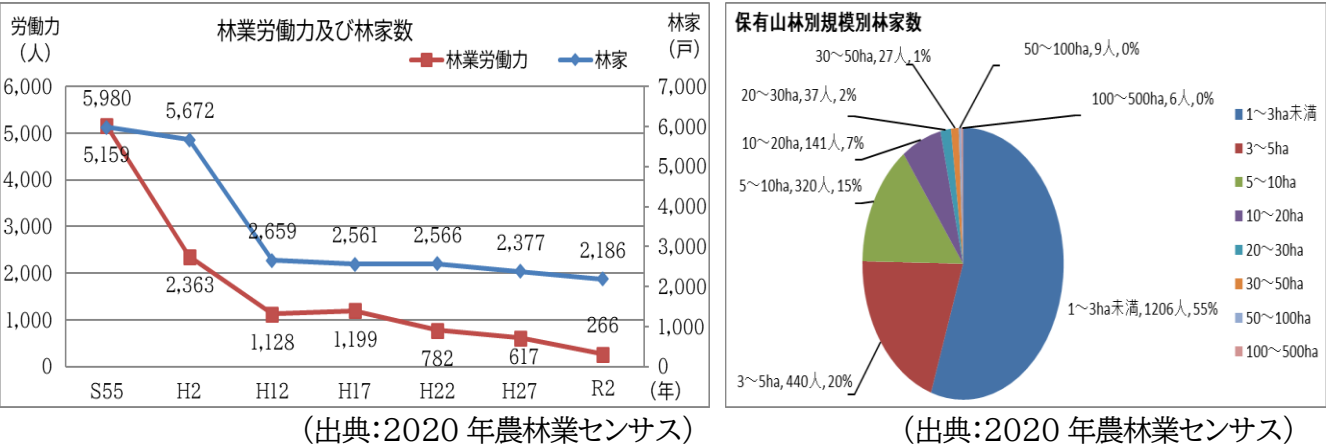
（出典：福井市林業水産課調べ）

福井市の森林・林業・木材産業の現状

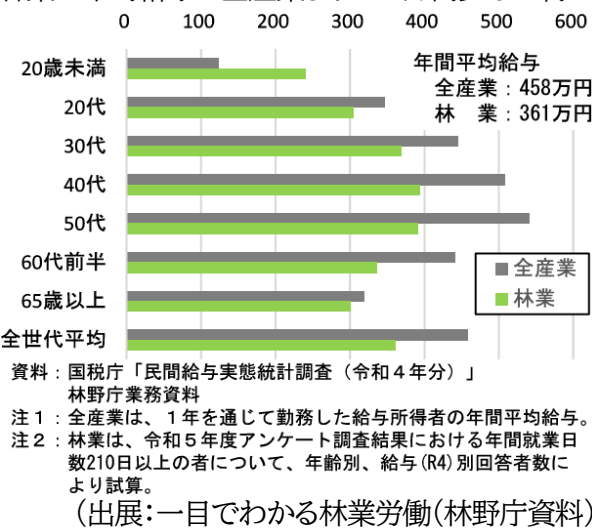
【林業(担い手関係)】

(1)林家等の推移

本市の林業労働力、林家数とも減少傾向、森林の所有形態は零細であり、集約化が難しい環境にある。



林業の平均給与は全産業より100万円少ない約360万円



災害発生率は全産業の約10倍である

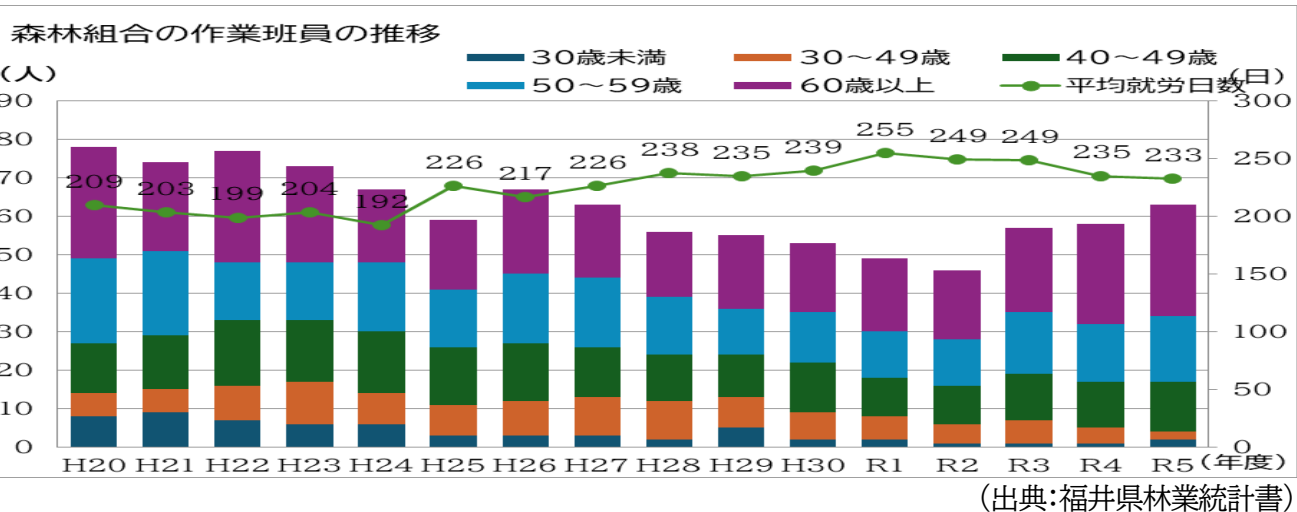
死傷年千人率（令和5年）		
全産業	2.4	
林業	22.8	
木材・木製品製造業	11.9	

資料：厚生労働省「業種別死傷年千人率」
注：死傷年千人率とは、労働者1000人あたり1年間に発生する労働災害による死傷者数（休業4日以上）を示したもの。

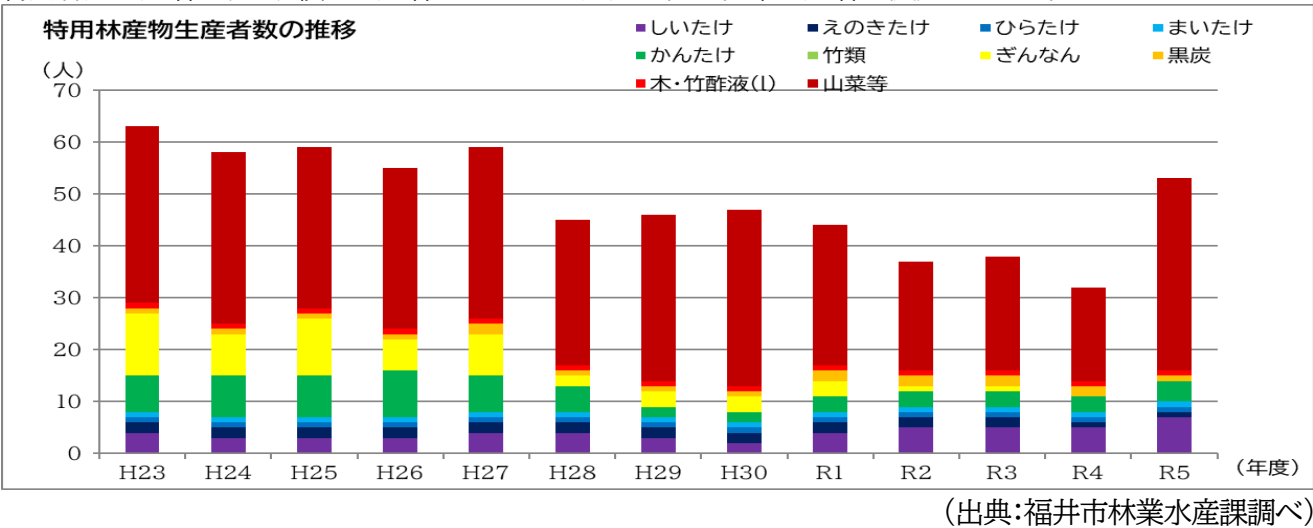
(出展：一目でわかる林業労働(林野庁資料))

(2)担い手の推移

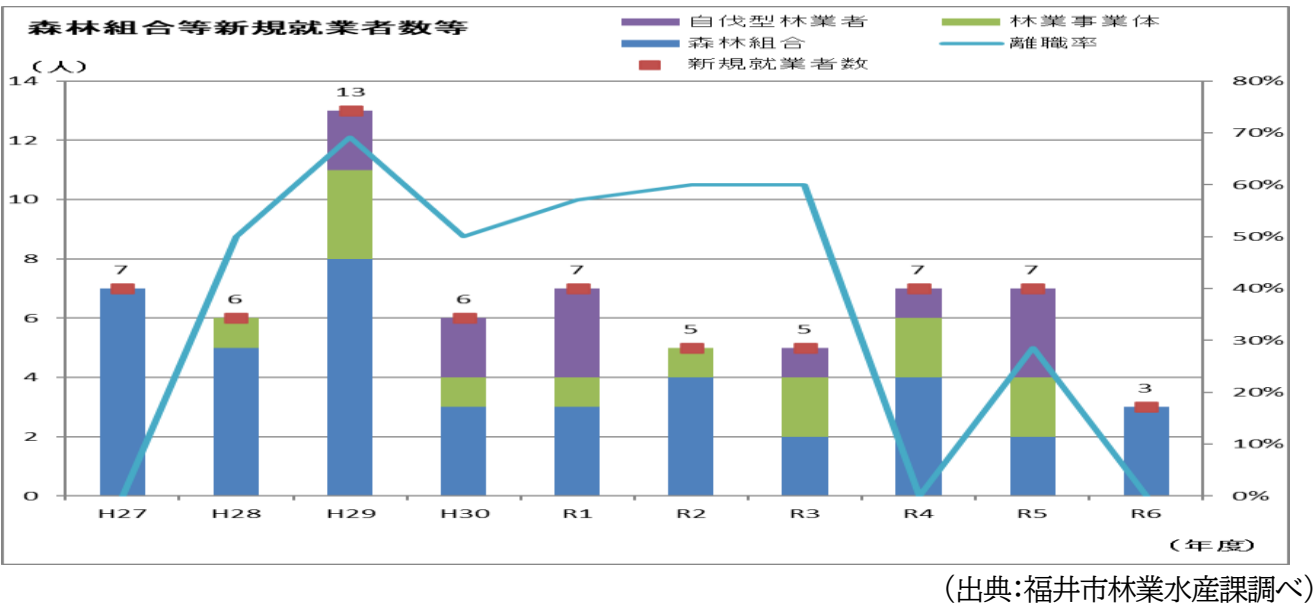
本市管内で活動している森林組合の作業班員数は、周辺森林組合との合併などにより増加した。
主伐や間伐の木材搬出量の増加等により平均就労日数は増加傾向にある。



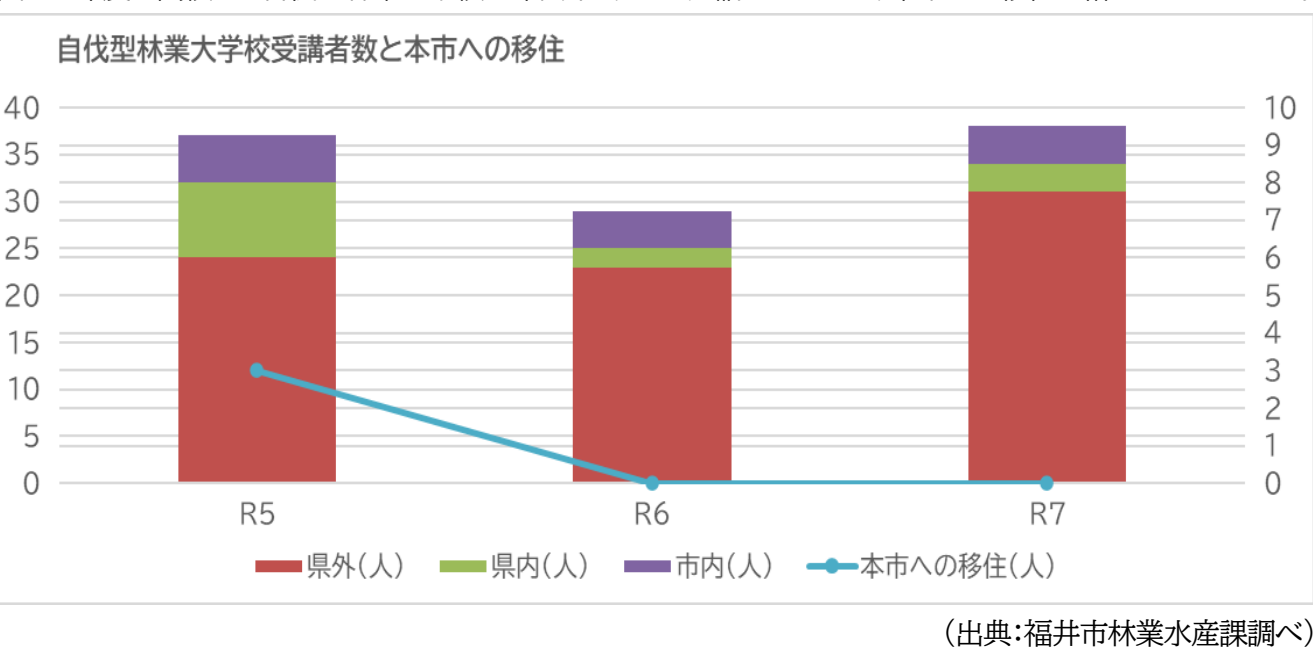
特用林産生産者は、大規模な生産者のリタイヤや越廼地区の山菜生産者が減少している。



林業の生産現場には年間平均約7人の新規就業者が就職しており、近年自伐林家などの新たな担い手の出現している。一方で、過去10年間の平均離職率は約40%となっている。



令和5年度に開校した自伐型林業大学校は年間平均34人受講しているが、本市への移住に結びついていない。



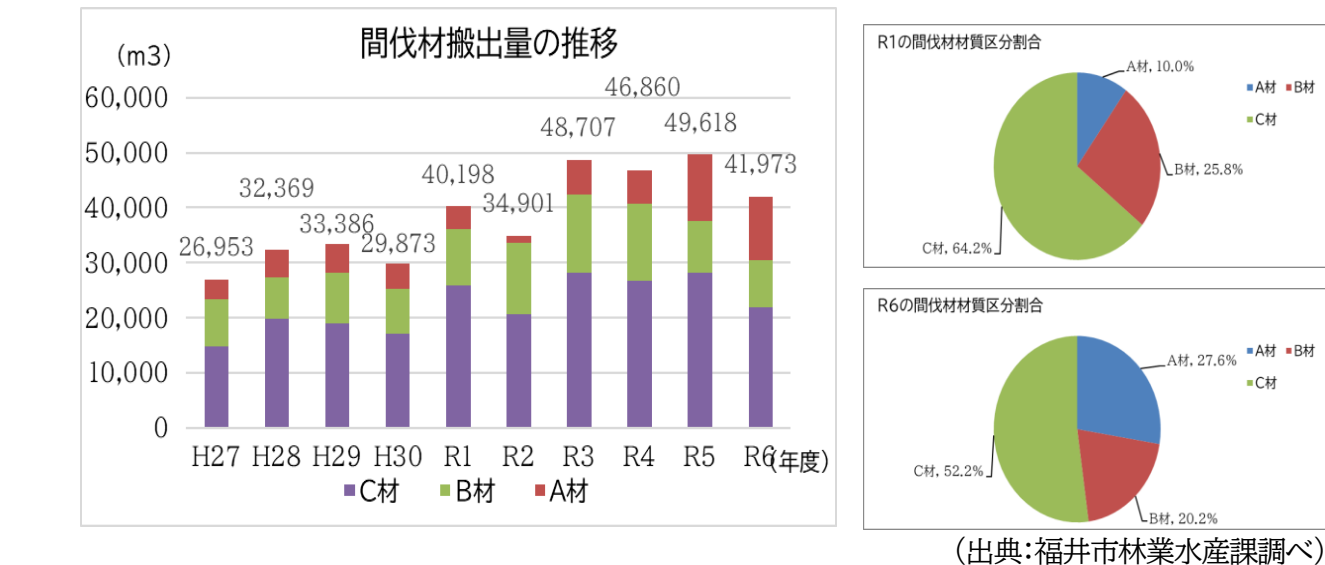
福井市の森林・林業・木材産業の現状

【木材産業(木材生産・木材利用・特用林産物・普及啓発関係)】

(1)間伐材搬出の推移

本市の間伐材搬出量は、平成 24 年度以降の切捨てから搬出間伐へと国の施策転換に加え、バイオマス施設の稼働により、品質毎の出荷先が確立したことにより搬出材積が飛躍的に増大している。

その間伐材材質区分は、現在県内に大規模な B 材工場がないことから、価格の低い C 材が約5割と高い状況



④ 木材需給の現状

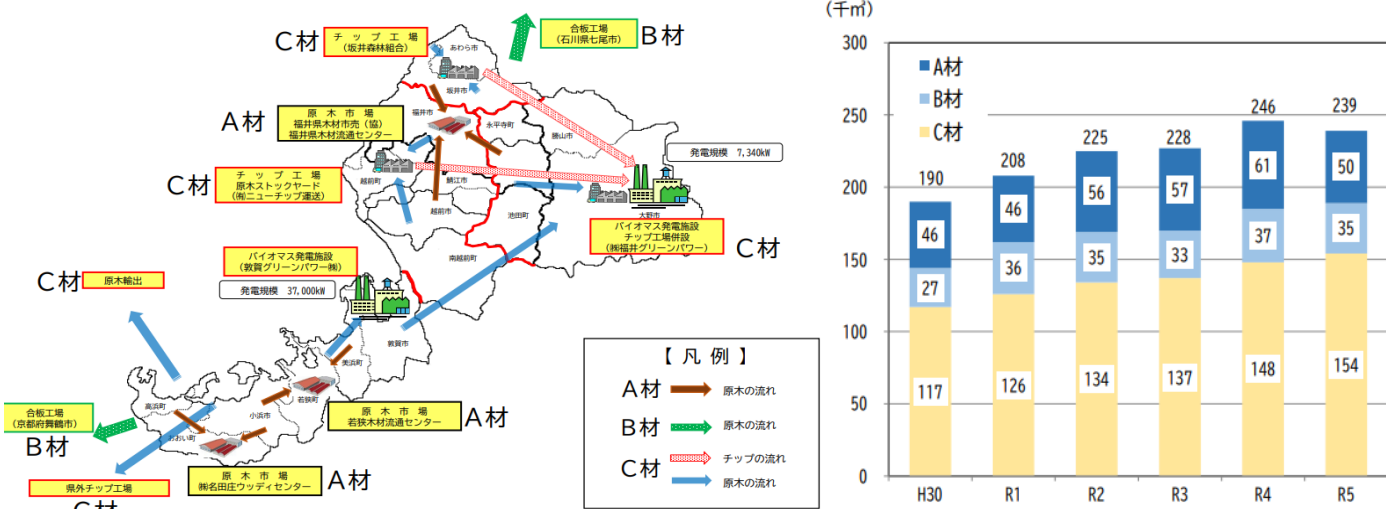
近年、搬出間伐の事業量の増加や販路の拡大により県産材生産量は増加傾向にあります。また、木質バイオマス発電施設の稼働によりC材需要は堅調に推移しています。一方で県内にB材工場がないため、価格の低いC材の比率が高い状況になっています。

- ・ A材*2は、県内の木材市場、製材工場を中心に出荷
- ・ B材*3は、県外の合板工場へ出荷
- ・ C材*4は、県内バイオマス発電施設を中心に出荷



原木の供給体制

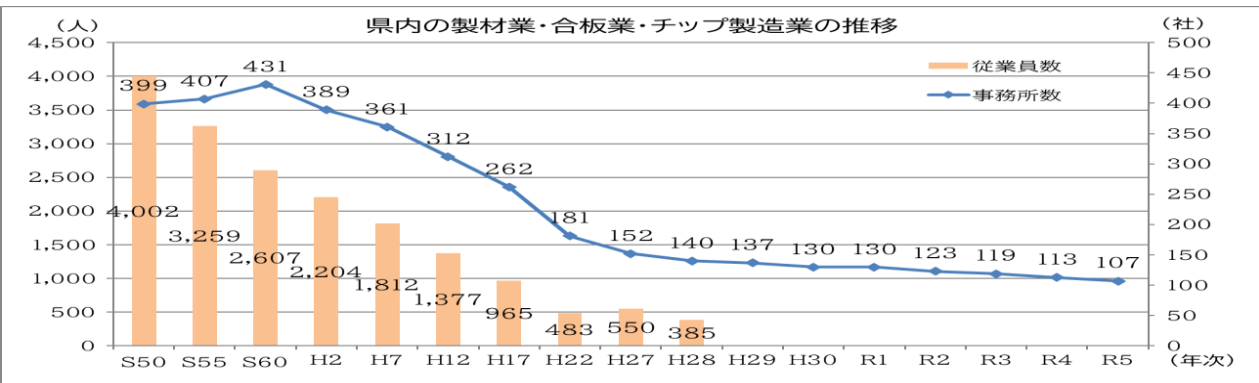
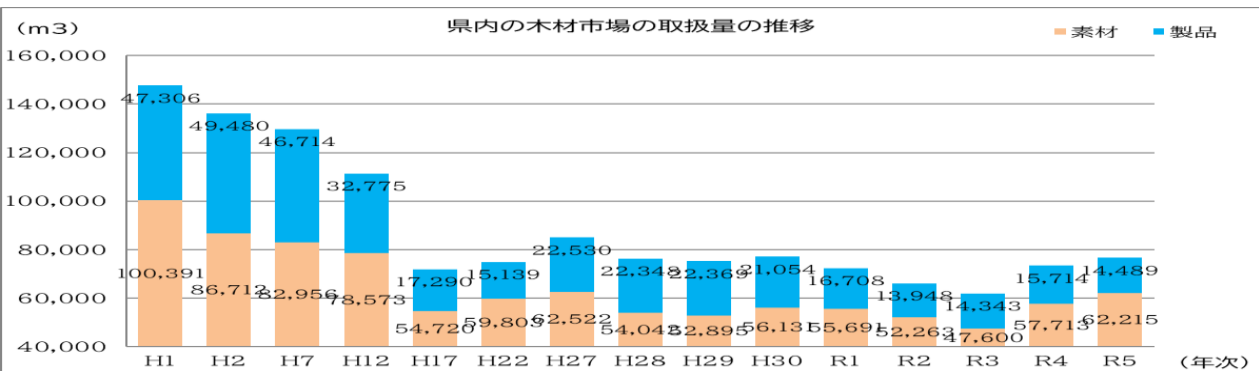
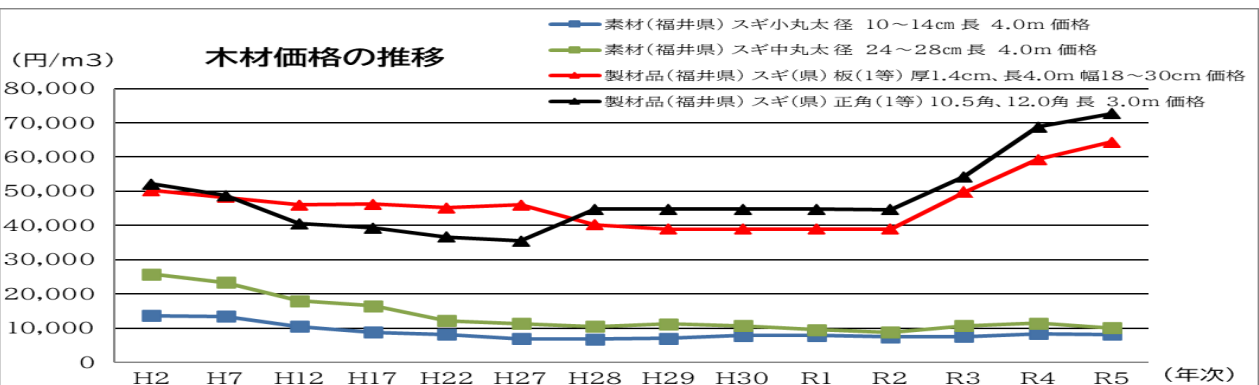
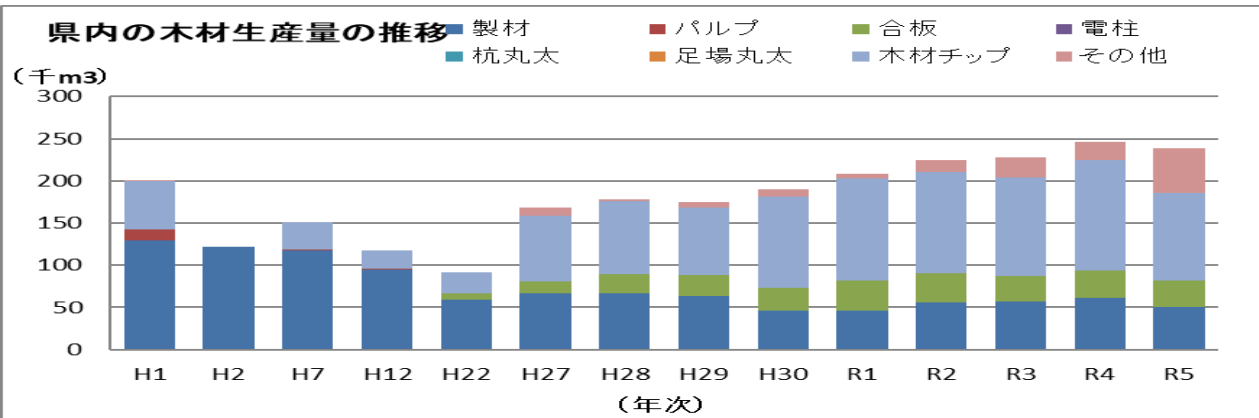
素材生産量(A、B、C 材)



(出典:ふくいの森林・林業の未来を切り拓く基本計画)

(2)木材産業の推移

本県の近年のスギの素材価格はほぼ横ばい、製品価格は上昇傾向で推移している。
県内の木材市場の取扱量、製材業、合板業、チップ製造業の事業所数、従事員数とも減少傾向である。
原木全体としての価値が向上しない状況で、森林所有者へ還元がなされていない。
木材チップの生産量が一番多い。

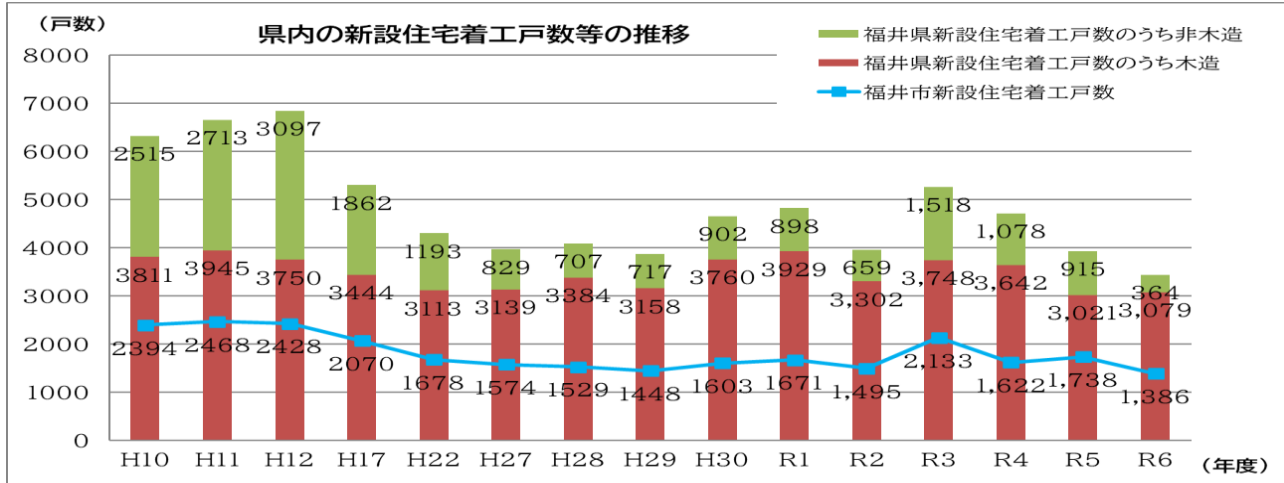


(出典:福井県林業統計書)

福井市の森林・林業・木材産業の現状

(3)住宅の推移

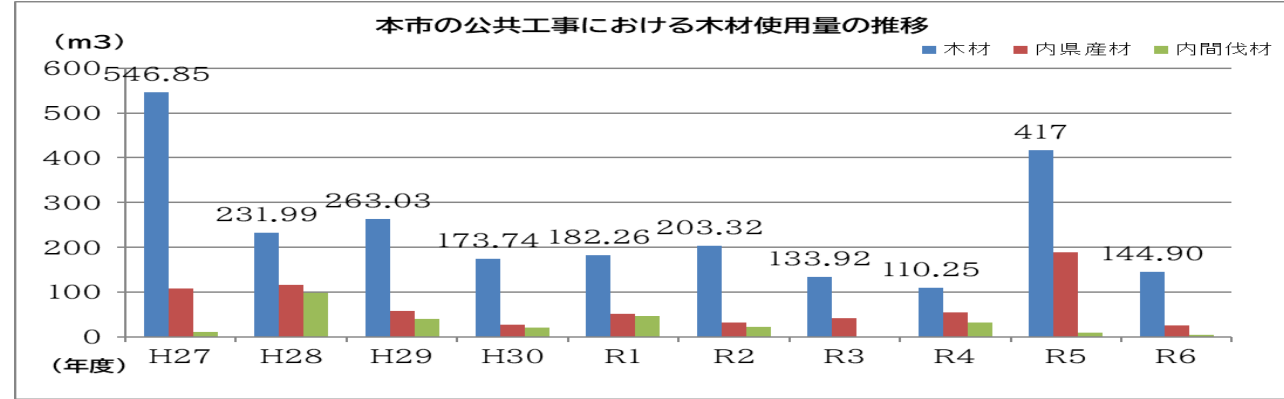
ふくいの森林・林業の未来を切り拓く基本計画によると、人口減や物価高騰による住宅需要の縮小ため、県、市内の新設住宅着工戸数、木造、非木造とも減少傾向である。



(出典:建築物・住宅着工統計データ)

(4)公共工事における木材使用量の推移

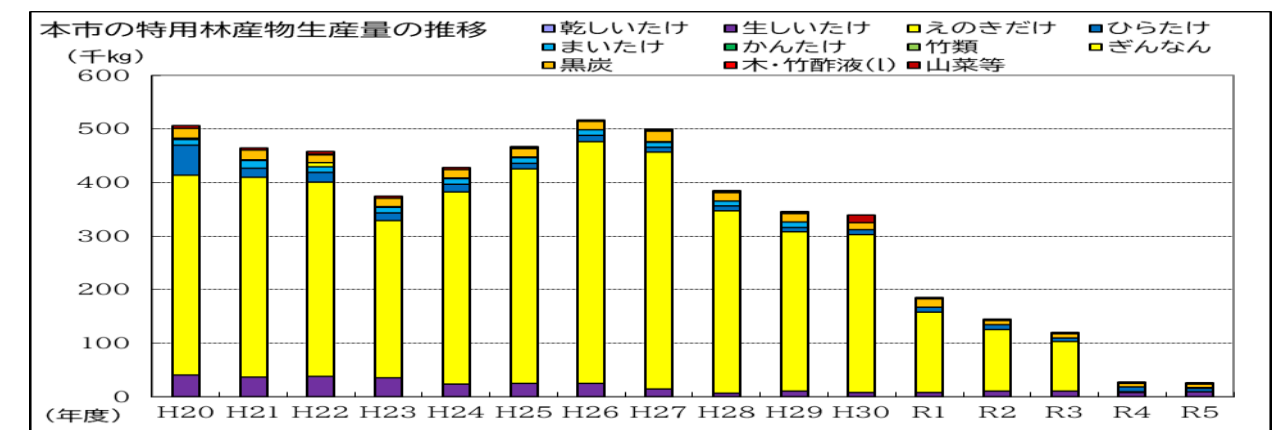
本市の公共工事における木材使用量は、年間200m3程度の実績で推移している。近年の主に木材使用している施設は北陸新幹線(東口)拡張施設(令和4年度)、フットボールセンター(令和5年度)、復元街並建物等の屋根(令和6年度)である。



(出典:福井市林業水産課調べ)

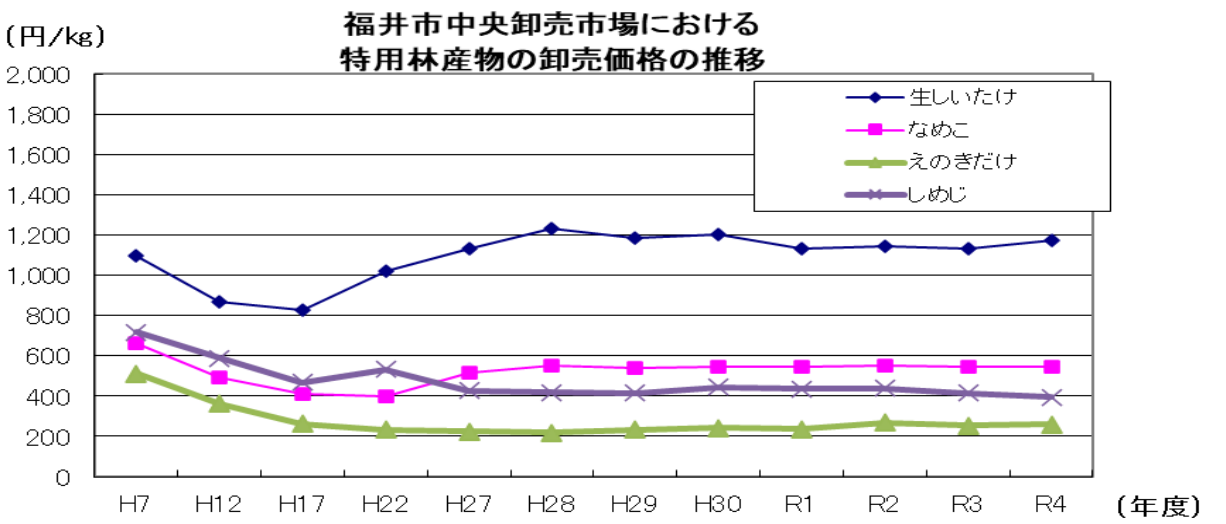
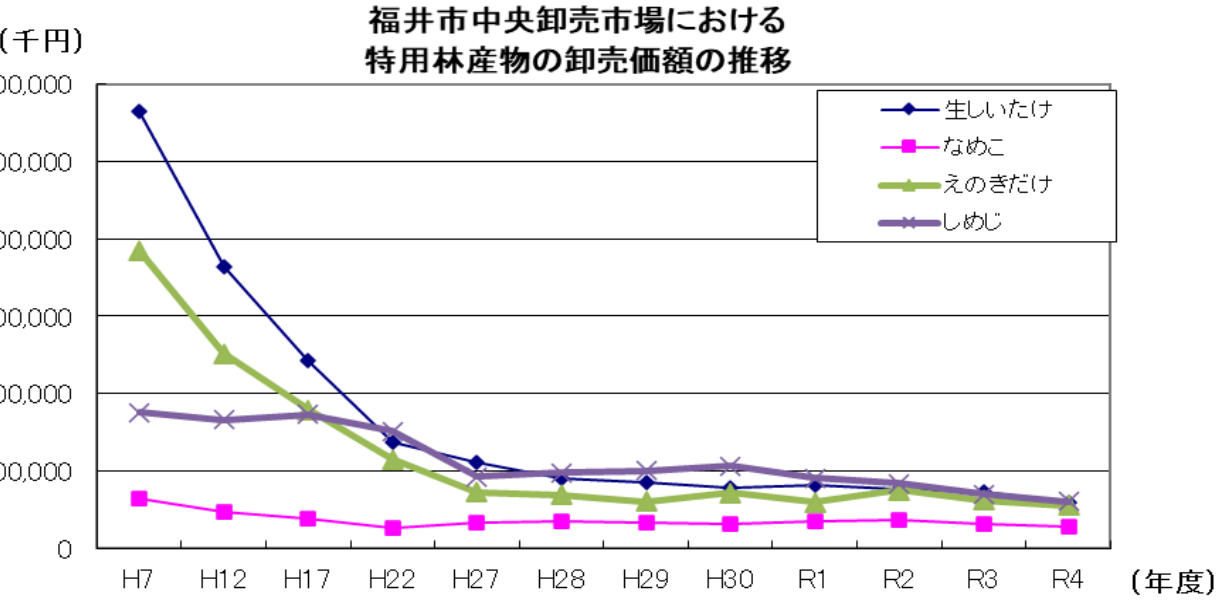
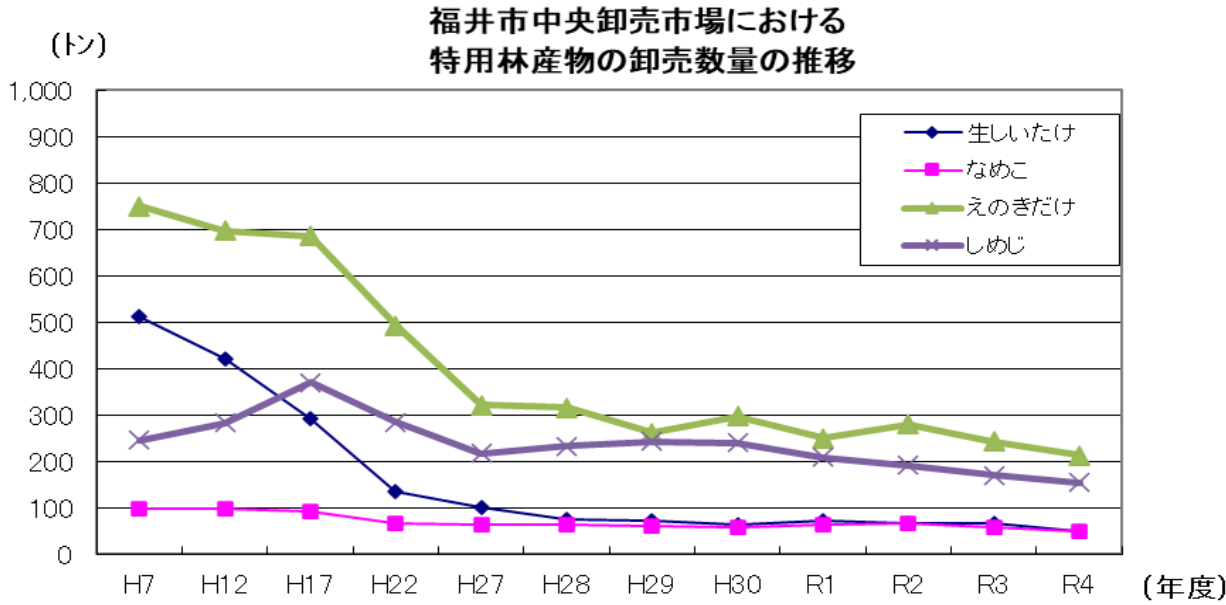
(5)特用林産物の推移

本市で生産されている特用林産物は、担い手の高齢化により特にえのきだけの生産が減少傾向にある。



(出典:福井県林業統計書)

福井市中央卸売市場における特用林産物の卸売数量、卸売価額、卸売価格とも低下傾向にある。

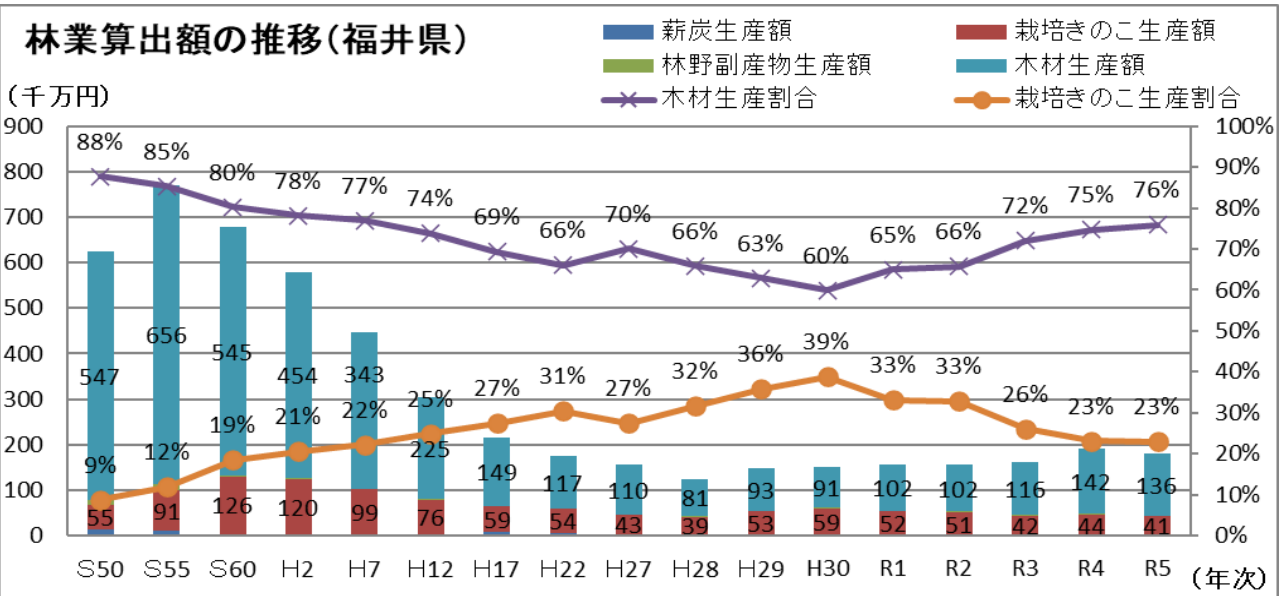


(出展:青果卸売市場調査)

福井市の森林・林業・木材産業の現状

(6) 林業産出額の推移

福井県の林業産出額は微増している。木材生産額は増加しているが、特用林産物の生産は減少している。

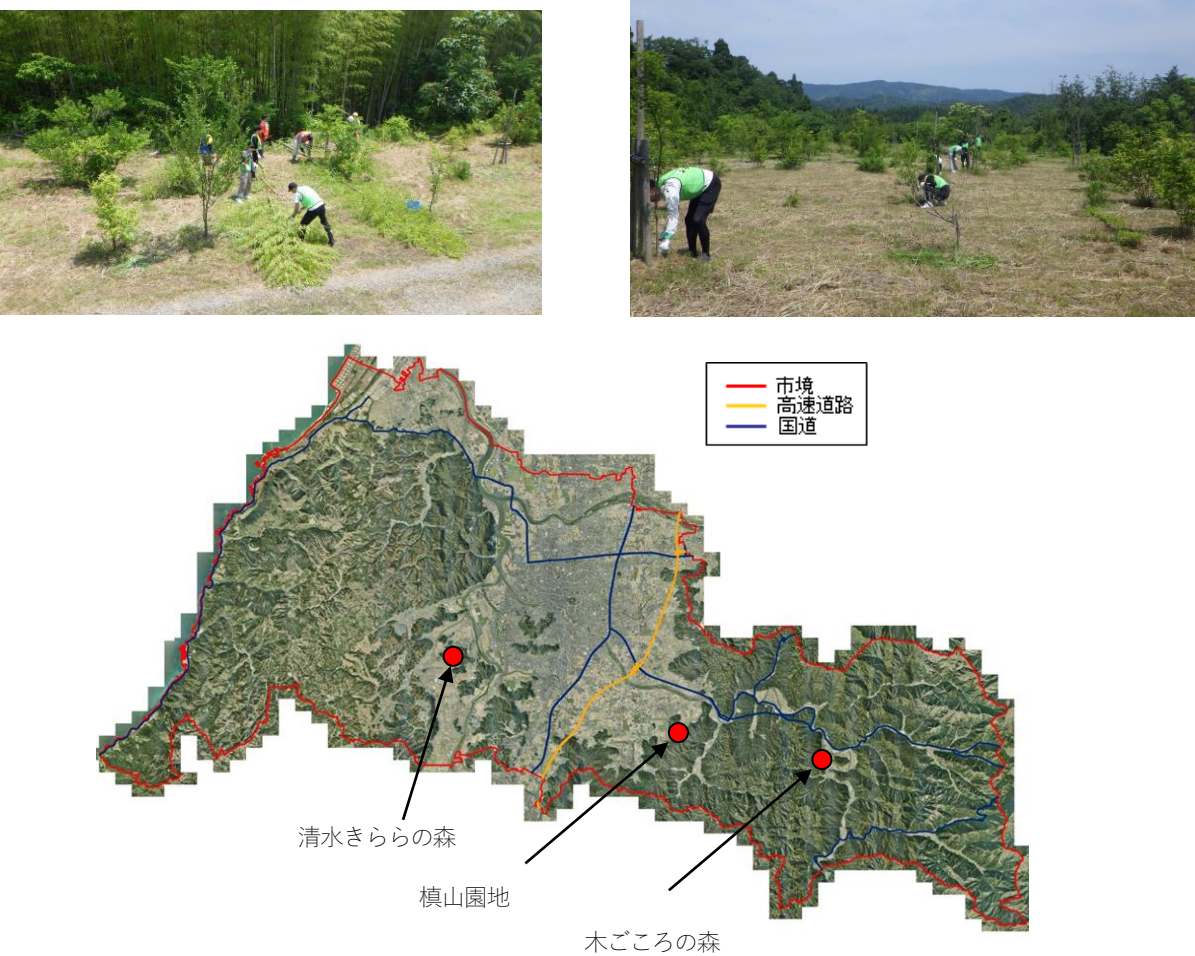


(出典:福井県林業統計書)

(7) 森林公園利用者数の推移

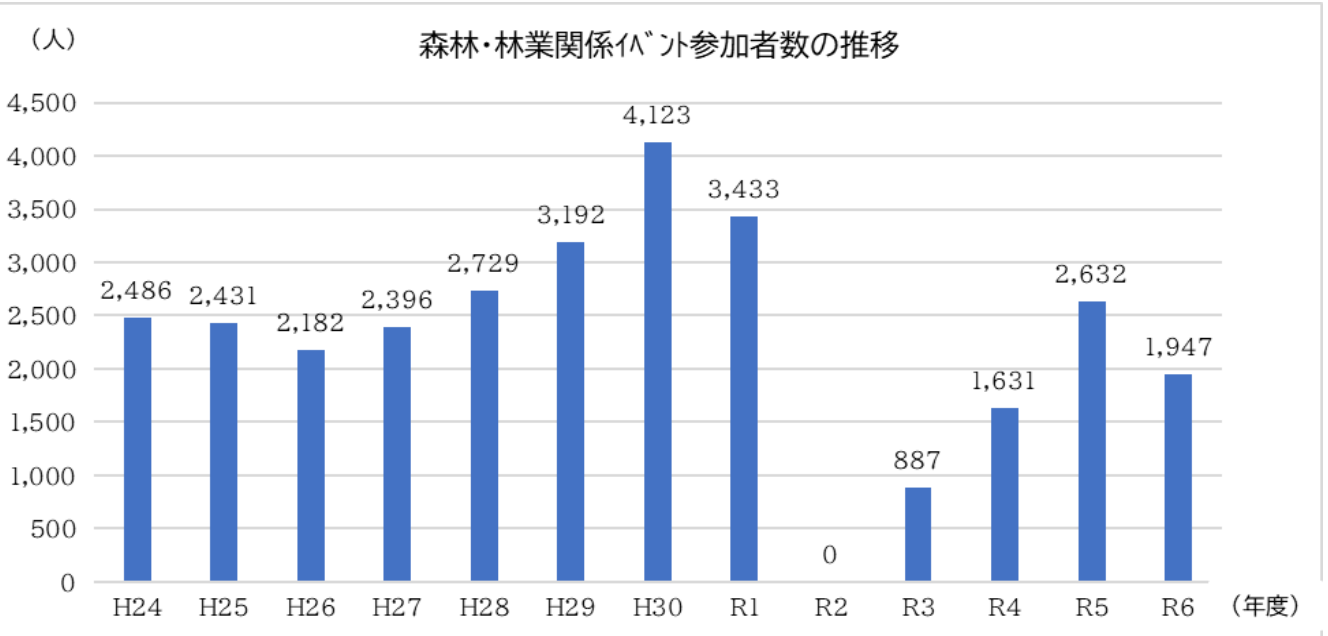
本市には、木や森について学ぶ場所として、横山公園に加え、平成26年度に木ごろの森、平成30年度に清水きらの森が全面開園し、森林・林業の普及啓発の場の充実している。

清水きらの森については、民間企業と整備・保全協定を締結し、整備や維持管理を行っている。
(清水きらの森での森林保全活動イベント状況)



(8) 森林・林業に関するイベント参加者数の推移

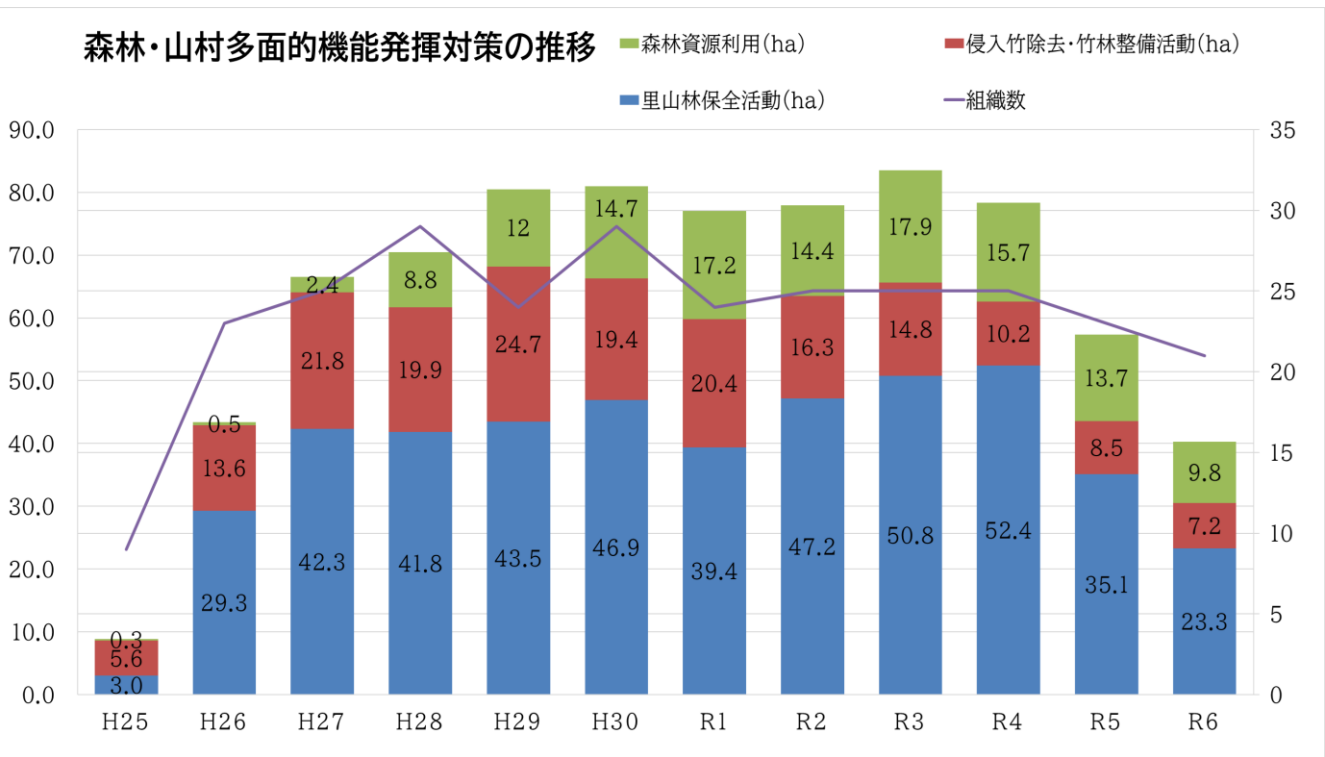
R2はコロナウイルス感染症関係で各種イベントが中止だったが、民間と連携した木のおもちゃ博への出典や花横山ウォークなどの地域イベントで森林・林業に関する普及啓発を推進している。



(出典:林業水産課調べ)

(9) 里山活動の推移

地域住民と森林との関わりが希薄になり、里山の荒廃が進んでいるため、平成25年度より、地域住民による森林の保全管理活動等の取組を支援し、森林の有する多面的機能の発揮及び山村の活性化を図っている。



(出典:林業水産課調べ)